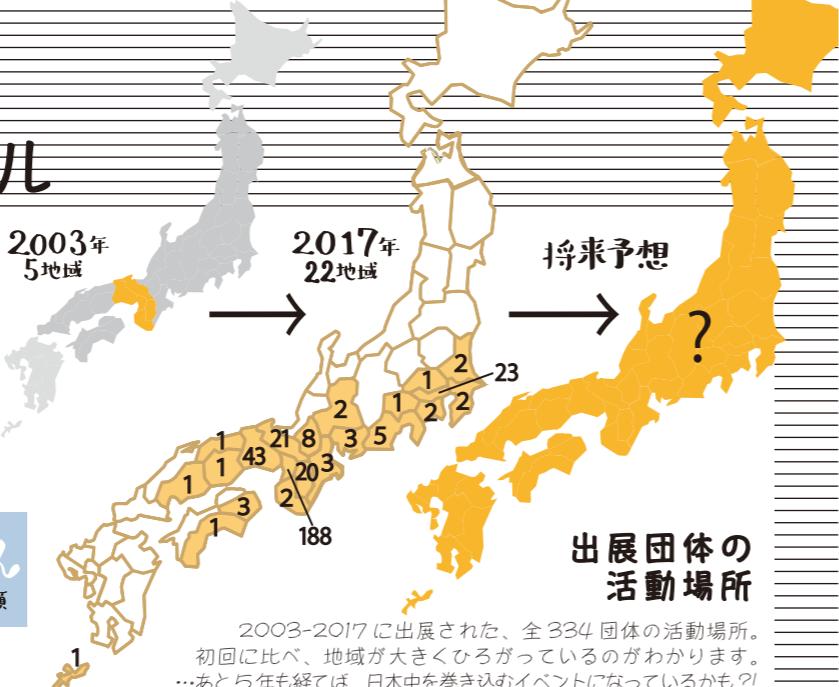
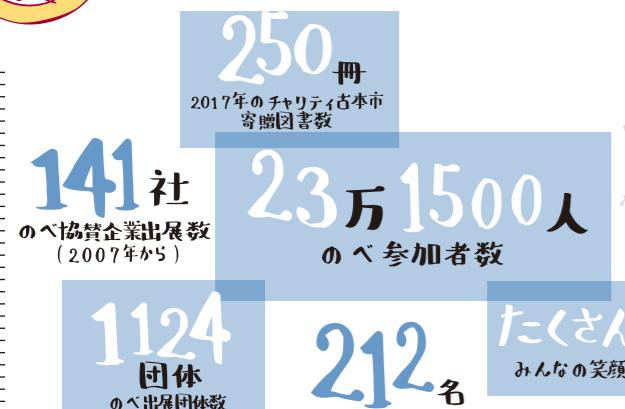




## 数字で見る フェスティバル



## 大阪自然史フェスティバルの今までとこれから

2003年の初開催から15年。大阪自然史フェスティバルは、出展団体のみなさんや参加者、協賛・協力企業やサポーターの方々とともに成長しつづけています。大阪周辺で活動する自然史関連団体や自然史博物館友の会会員が交流するためのイベントであったフェスティバルは、いつしか、その地域を飛び越え、この日のために日本全国でたくさんの人たちが企画を練り、ともに学び、ともに楽しみ、ともに情報交換をするためのフェスティバルへと変わりました。

### これからのフェスティバルに向けて

当初の目的である「博物館コミュニティのネットワークの強化」は大切なテーマにしながら、私たちは以下のことを柱にしながら、これからも大阪自然史フェスティバルの開催をつづけていきます。

- ・**「つながる」** 出展団体がつながる場を提供。地域で活動している団体どうしのつながりや、大学生と企業のつながりなど、相互に学び合い、新しい取り組みへと発展するつながりを応援します。
- ・**「みつける」** 初めてフェスティバルに遊びに来た人も、魅力に感じる活動や、知的好奇心をくすぐられる情報をみつけられる場を提供し続けます。
- ・**「そぞつ」** 学生時代にフェスティバルの運営スタッフとして参加したり、出展団体として活動発表したことをきっかけに、地域での活動や自然環境系の仕事や研究者になるなど、若手がこれらのフィールドで活躍していくための入口になりたいと思っています。
- ・**「気づく」** 活動発表の方法にもたくさんの工夫がみられます。フェスティバルへの参加をきっかけに、自然を学ぶ楽しさを伝える新しい形を学びあいましょう。
- ・**「つづく」** 今年で15を迎えた「自然派市民の文化祭」を継続していくためにも、みなさんと一緒に作り上げていくためにも、たくさんの応援を必要としています。ぜひ、みなさま、大阪自然史フェスティバル開催と継続に向けたご支援をこれからも引きつづきよろしくお願ひいたします。



大阪自然史フェスティバルへのクレジットカードでのご寄付は、寄付サイト「シンカブル Syncable」の決済システムを利用しています。また、お譲りいただいた古本の売上を開催資金に充てる「チャリティ古本市」へのご参加でもフェスティバルを応援いただけます。詳しくはホームページをご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

**Syncable**



まもなく400名の大台に乗りそうな我が標本サークル「なにわホネホネ団」がデビューしたのも、2004年の自然史フェスでした。チラシを見ると、フェスの歴史は私の博物館での歴史なんだなあと実感。(にしづわ)

認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内  
電話 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306 www.omnh.net/npo

はくらボ通信 Vol.2  
認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター  
2019年11月発行

[f www.facebook.com/naturalhistory.center](https://www.facebook.com/naturalhistory.center)

@omnh\_museumshop



このパンフレットは環境に配慮したベジタブルオイルインクを使用しています。

## はくらボ 通信 Vol.2

～何やってるの？ 活動しようかい～



特集

## 大阪自然史フェスティバルの 15年間

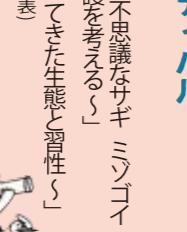
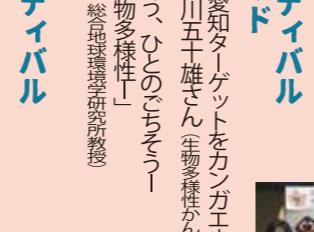
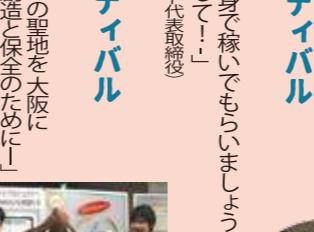
大阪周辺の自然に関わるさまざまな団体があつまり、自然のおもしろさ、活動の楽しさを伝える「自然派市民の文化祭」として、2003年に初開催。近年、出展団体は100団体を超えて、来場者数は延べ1万人～2万人を維持しています。はくらボは事務局として運営のすべてに関わり、地域と博物館を結ぶコーディネーターの役割を担ってきました。15周年にあたり、これまで大阪自然史フェスティバルに関わってくれた5団体のみなさんへのインタビューを通じ、私たちの活動をふりかえります。(西澤真樹子・上田裕子)

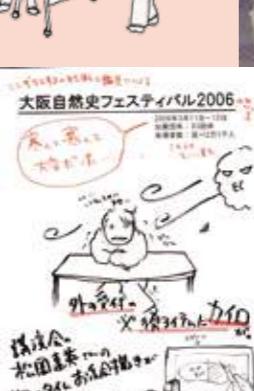
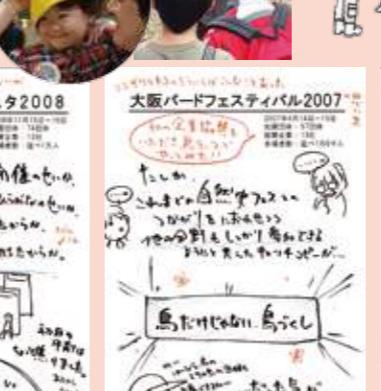
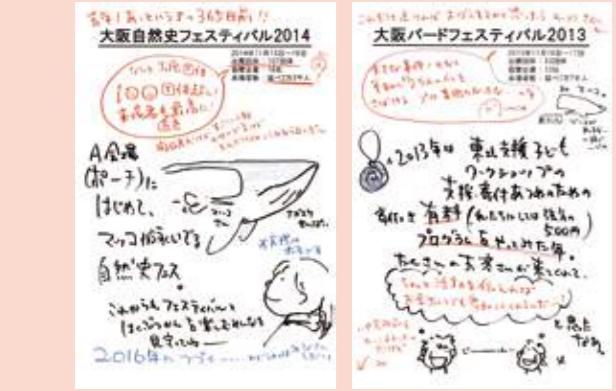


はくらボ



認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター

<b>11/18~19</b> 20,200人 9社 <b>110</b> 団体	<b>11/19~20</b> 19,000人 10社 <b>103</b> 団体	<b>11/14~15</b> 15,000人 18社 <b>72</b> 団体	<b>11/15~16</b> 23,000人 16社 <b>107</b> 団体	<b>11/16~17</b> 16,700人 13社 <b>63</b> 団体	<b>11/10~11</b> 17,300人 13社 <b>97</b> 団体	<b>11/19~20</b> 12,000人 11社 <b>57</b> 団体	<b>11/20~21</b> 18,300人 12社 <b>47</b> 団体	<b>11/14~15</b> 13,000人 13社 <b>88</b> 団体	<b>11/15~16</b> 10,000人 13社 <b>74</b> 団体	<b>4/14~15</b> 16,000人 13社 <b>57</b> 団体	<b>3/11~12</b> 21,000人 13社 <b>83</b> 団体	<b>3/20~21</b> 11,000人 団体 <b>81</b>	<b>3/21~23</b> 20,000人 団体 <b>85</b>
講演会「ダード・マックス 嫌われダーダーの愛し方 島野智弘さん 法政大学教授	講演会「ダード・マックス 優雅なダーダーの奇妙な生態」 上田恵介さん 立教大学教授	シンポジウム「街中で繁殖するハヤブサと チヨウゲンボウについて考える」 川田寅介さん 立教大学教授	※JAPANGIVINGを通じて 初のクラウドファンディングに挑戦 講演会「子を他人に預ける鳥、 カツコウ類研究の最前線」 上田恵介さん 立教大学教授	シンポジウム「森に生きる不思議なサギ うそのくらじを知り、保護を考える」 柳生博さん(日本鳥学会員)近畿地区環境会議 「鳥の渡りと生物多様性の保全」 樋口広芳さん(日本野鳥の会会長)	講演会「日本鳥学会員近畿地区環境会議 「鳥の渡りと生物多様性の保全」 樋口広芳さん(日本野鳥の会会長)	「あなたなら何ができる?...愛知ターゲットを力ノガエル」 道家哲平さん(エコノミー) 宮川五十雄さん(生物多様性が好き) 「鳥のごそごそ、猿のごそごそ、ひとのごそごそ」 湯本貴和さん(入間文化研究機関 総合地球環境研究所教授)	講演会「力ノガエルのきもちを忘れない」 長谷川雅美さん(カエル探偵団 東邦大学教授)	講演会「鳥が作った自然界・鳥・虫・花の共進化」 上田恵介さん(立教大学教授)	講演会「鳥が作つた自然界・鳥・虫・花の共進化」 松岡達英さん(自然絵本作家)	講演会「鳥が作つた自然界・鳥・虫・花の共進化」 上田恵介さん(立教大学教授)	講演会「鳥が作つた自然界・鳥・虫・花の共進化」 松岡達英さん(自然絵本作家)	講演会「裏山再発見 半径200メートルの自然観察」 浜口満さん(珊瑚舎ス「一レ講師」)	講演会「生きもの地図を作ろう 調べる力・生かす道」 浜口哲一さん(平塚市博物館学芸員)
<b>大阪自然史フェスティバル 2017</b> 2017	<b>大阪自然史 フェスティバル 2016</b> 2016	<b>大阪自然史フェスティバル 2015</b> 2015	<b>大阪自然史フェスティバル 2014</b> 2014	<b>大阪バードフェスティバル 2013</b> 2013	<b>大阪自然史フェスティバル 2011・リミテッド 2010</b> 2010	<b>大阪バードフェスティバル 2012</b> 2012	<b>大阪自然史フェスティバル 2009</b> 2009	<b>大阪自然史フェスティバル 2008</b> 2008	<b>大阪自然史フェスティバル 2007</b> 2007	<b>大阪自然史フェスティバル 2006</b> 2006	<b>大阪自然史フェスティバル 2005</b> 2005	<b>大阪自然史フェスティバル 2004</b> 2004	<b>大阪自然史フェスティバル 2003</b> 2003
													



# 大阪自然史フェスティバル 開催のきっかけ

域やサークルとの連携を強化し、物館のコミュニティを活性化する



- ① 2回ほど大学の頃に出演したことがあります、今のメンバーでの参加は初。今回は昆虫やキノコ、植物など幅広い内容で、初心者の人でも楽しめる内容にしています。奈良の自然の魅力を発信していきたいと思い、出展を申し込みました。

② 普段見る機会の少ない団体の活動を見て、気になつたら話しかけられることです。この数の団体が一度で見られることはなかなかありません。「いつ活動していますか?」「見学はできますか?」など気になつたらドンドン声をかけています。

③ これまで自然に興味はあったけど団体を知らなかつた人、興味は無いけどたまたま見にきた人を博物館フリークにしてほしいです。今まで以上にお祭り感があると、遊びに来やすいでしょうか。あ!屋台とか音楽隊とかいるとサークスみたいで楽しそう!

④ ジュニアの頃にも参加していました。ひっこみがちで人見知りの自分が、ジュニアの説明をしているときはペラペラと喋っていることに気づき驚きました。その時ジュニアにいたメンバーが今では研究者になっていることも驚きます。

※ジュニア自然史クラブとは、博物館のサークル「自然が好きな中高生のためのクラブ」です。



## 大学生と企業のコラボ まつまえ・さとし 松前論

近大ホネホネ団と株式会社アクアティメント

- ① 2011年初出展。母校の団体活動協力のみならず、「学部にとらわれず、学生・卒業生・関係者が気軽に立ち寄れる場をつくり、維持してやりたい」という恩師の想いに賛同。当フェスを紹介頂き、学生・卒業生スタッフを主体に毎年出展を目標として参加させて頂いております。
  - ② 器のおおきさ！ユルさとカタさがバランスよく混在し、来館者・出展者・主催者の各々が“きっかけ”“発見”“想い”を持って帰れる場だと思います。と同時に、フェスの魅力と器の大きさを維持し続けている出展者と主催者みなさまの意識と質の高さを毎年感じます。
  - ③ なにがなんでも毎年開催!!毎回、多くの繋がりと学びに出会える貴重な場です。今まで以上でも以下でもなく、取り巻く環境・情勢等が変わろうとも“館ある限り永久開催自然史フェス”を謳えるよう、お願い致します。
  - ④ 2011年の姉妹フェス（ホネホネサミット）が当社のイベント初出展ということもあり、とても思い入れがあります。本編とは外れますが、近年の娘鉄道会の飯の美味さと参加者の多くは価値あり早く対応できるまでに成長せねばと言い聞かせながら、喰みしめています



2008年より体験型講座「谷口高司のタマゴ式鳥絵塾」を主催  
たにぐち・たかし・りつこ  
谷口高司・りつこさん  
谷口高司鳥絵工房

- ① 2008年が初出展。2007年の大阪バードフェスティバルがとても充実していたと興和のEさんに教わり、勇気を持って電話をしたところ、学芸員の和田さんが出てくださって、電話を切るときには「アゴアシ自腹で大阪出陣」という驚愕な展開になっていました。

② 運営スタッフの方の笑顔と、機転に尽きます。北から南、アジアまで数多あるイベントで、これ仕切る団体は初めてです。スタッフの熱意が出演者に伝わり、毎年ワクワクするイベントに進化のルールが遵守されているのも魅力です。

③ 20年30年と歴史を重ねていく中で、今のスピリットを受け継ぐ、新しい世代も育てて行って頂きたい。友の会で活動している子どもたちの成長が、そのままイベントの成長に繋がることがベスト。大阪に自然史フェスあり、といわれるようB I Gになってください。

④ 私が紹介した出展者がいきなりたき火を始めたり、勢いよく後頭部から転んだ爆音で、広場が静まり返ったり、テレビに出演することになったり、鳥の仲間の記念撮影で忙しかったり。谷口が緊急入院で伺えなかつたり。毎年起こるいろいろなことが準備します。



例えばこんな写真

大阪自然史フェスティバルを開催しようと思い立  
た最初のとき、かけは、とても迷続むことでした。

大阪市立自然史博物館には、約1,800世帯（2002年当時）

大阪市立自然史博物館には、約1,800世帯（2002年当時）規模の友の会があるほかに、数多くのサークルが博物館と密接に関係しながら活発に活動しています。しかし、友の会会員の多くは、博物館周辺でどんなサークルが活動しているかを驚くほど知りません。そこで、友の会会員に博物館周辺にどんなサークルがあるのか伝えたいと思いつつ、有効な手段を思いつかずになりました。

002年のこと、なにかイベントをしようと話が持ち上がりました。  
ここで思いついたのが大阪自然史フェスティバルです。

博物館周辺で活動しているサークルを一同に集めて、友の会会員に来てもらえばいいんだ！そこから手探りで大阪自然中フースティバルが誕生しました

友の会会員が、関連するサークルの活動のことをよく知らないという状況は、大阪周辺の他の比較的大きな自然史関連団体でも似たようなものということがわかつきました。そこで、友の会や博物館周辺という枠組みをはずして、大阪周辺のさまざまなサークルを呼んで、一緒にサークルが交流する場にしてしまおうと、企画はふくらんでいきました。

大阪市立自然史博物館 大阪自然史センター編(2009)、「自然史博物館」を変えていく 高陵社書店 より抜粋